

# 平成3年度三翠化学会総会報告

## 三翠化学会

(題字は稲川先生)

第35号  
平成3年9月30日発行  
三翠化学会  
津市浜町1515  
三重大学農芸化学コース内  
電話/津(0592)32-1211  
振替/名古屋9-59345  
印刷/株式会社ある  
TEL(052)332-0861 大8 長谷川正

### 母校新館視聴覚室にて開催

平成3年度三翠化学会総会が去る6月2日(日)、母校三重大学生物資源学部新館二階の視聴覚室にて開催された。

当日は来賓として生物資源学部長野田宏行先生、農芸化学コース主任山田哲也先生ならびに名誉教授北岸確三先生、赤木盛郎先生、現職教官の渡辺 巖先生、柏村直樹先生にご臨席頂き、会員五十余名が参集した。

野田先生の来賓挨拶のあと、原田副会長(専3)の司会のもとに、議長に今西 勝氏(専1)、議事録署名人に内藤茂三氏(大18)を選出し議事に入った。

平成2年度事業報告を古市副会長、同決算報告を久松幹事、監査報告を森本幹事が行った。引続いて平成2年度基金庶務、会計報告を高橋幹事、同監査報告を若林監事が行い審議の結果、

果、いずれも異議なく承認された。本年度は役員改選の時期に当たるため、平成3、4年度の役員についての審議が行われ、別掲の通り、渡辺会長、原田副会長を再選し、小畑副会長以下理事22名、幹事2名を選出、承認した。

渡辺会長の挨拶のあと、各クラス評議員の会長指名ならびに幹事8名の理事会委嘱が行われた。新役員体制のもとに平成3年度事業計画案が西川幹事から、同予算案が久松幹事から提案され、審議の結果いずれも異議なく承認された。

引続いて三翠化学会会則改訂の条件が、渡辺会長より提案された。その骨子は別掲の通り、大学の改組に伴う文言の整理

で、会員の範疇に関するものである。最後に、大学の改組に伴う措置としての三翠同窓会(三翠化学会等が参加する全体の同窓会)会則の改訂案について、嶋林三翠同窓会理事(学内同窓生代表)より報告が行われた。骨子は、三翠同窓会と旧水産学部同窓会が合併し、新たに三翠同窓会として拡大発展するための改訂に関するものである。なお新三翠同窓会総会は8月3日に開催された。

三翠化学会総会の閉会が直せられ、引続いて三重県支部総会が渋谷 明氏(大4)の司会で開催された。佐々木支部長の挨拶のち、支部役員(三翠会三重県支部連絡協議会役員含む)の選出等が行われて、支部総会も滞りなく終了した。

引続いて、松浦 誠教授(農業生産学講座昆虫学教育研究分野)による講演「ハチは何故刺すか」が行われた。松浦教授はスズメバチ研究の第一人者で、

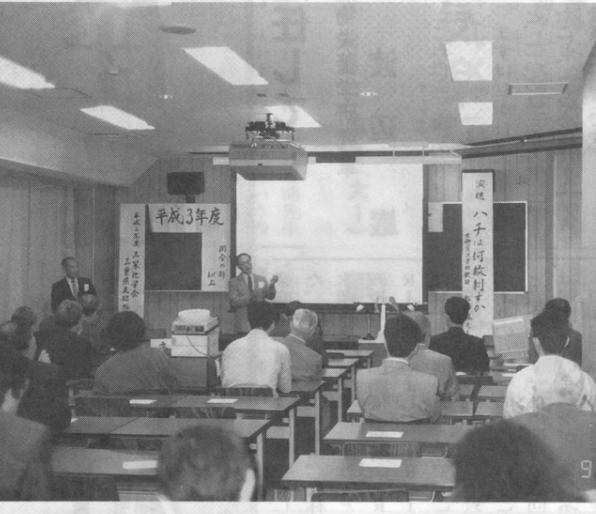
多数の著書の中に演題と同名の著書もあり、興味深いお話をわかりやすく話して頂き、聴衆に深い感銘と新鮮なおどろきを与えて頂いた。

講演会終了後、場所を三翠会館に移して懇親会に入った。懇親会の司会は今井 滋氏(大9)で、会長挨拶のち、来賓として名誉教授北岸、赤木両先生ならびに現職教官の渡辺、柏村両先生よりご挨拶頂き、出席会員のうち最も速方から出席頂いた里村雅喜氏(専1)の音頭で乾杯し、歓談に入った。

会場が同窓生一同にとつてなつかしい三翠会館の二階で、昼に座つての会であったため、終始和やかな雰囲気であり、さらに赤木名誉教授には詩吟で、ご講演頂いた松浦先生には鈴鹿馬子唄で、得意のどを披露頂き、会は大いに盛り上がった。

恒例の三翠応援歌は嶋田協氏の音頭で歌われ、会を締め括った。

総会当日は大学祭のメインの日であり、大学祭見物もかねて参加された会員も多かったことと思ふが、あいに激しく雨にたたられた。悪天候を押し参加頂いた来賓の諸先生ならびに会員諸氏に感謝申し上げます。(小畑、大15記)



### ご挨拶

会長 渡辺和巳

会員諸氏におかれましては、各方面にて活躍のことと拝察申し上げます。さて私こと三翠化学会の会長を引継いで拝命いたすことになりました。微力ではございますが、これまで同様努力致して参りたいと思っております。どうかよろしくご支援の程お願い申し上げます。さて母校では、この4月から博士課程が設置され、各実共に最高学府としての形を整え、増々の発展が期待される所であり、又三翠化学会の上層部団体であります三翠同窓会が、三翠化学会も毎年30余名の新会員を迎え、確実に大きく育ちつつあり、ご同慶の至りであり、ついでに、旧来の方法に加え、命に際し申し上げた三点の内、

### 平成2年度事業報告

- 平成2年 4月28日 第1回役員・評議員会および基金運用委員会
- 5月19日 平成2年度総会(愛知県知多郡、魚友にて)
- 7月13日 第2回役員・評議員会および基金運用委員会
- 9月30日 三翠化学第33号発行
- 平成3年 2月22日 第3回役員・評議員会および基金運用委員会
- 4月30日 三翠化学第34号発行

### 平成3年度事業計画(案)

- 平成3年 5月17日 第1回役員・評議員会および基金運用委員会
- 6月2日 平成3年度総会(三重大学生物資源学部にて)
- 7月 第2回役員・評議員会および基金運用委員会
- 9月 三翠化学第35号発行
- 平成4年 1月 第3回役員・評議員会および基金運用委員会
- 3月 三翠化学第36号発行

### 平成2年度三翠化学基金決算報告

平成3年3月31日

収入の部	
前年度よりの繰越	1,741,169円
郵便貯金利息	8,222
計	1,749,391
支出の部	
新入生歓迎会	30,000
支部活動費	80,000
同上送料	1,020
総会補助	30,000
総会写真送付関係費	16,440
こうより補助	30,000
卒業記念品費(50人)	72,100
計	259,560
差引残高	1,489,831
基金管理内容	
定額郵便貯金20万円×7	1,400,000
郵便貯金	89,831

### 三翠化学会平成2年度決算報告

1) 収入の部	予算	決算(円)	備考
前年度繰越	497,085	497,085	
会費	850,000	844,000	
雑収入	5,000	0	
預金利息	5,000	9,538	
計	1,357,085	1,350,623	
2) 支出の部			
会報印刷	500,000	275,950	会報33,34号
郵送通信費	250,000	260,660	会報、会議連絡
会議費	140,000	129,686	役員・評議員会等
人件費	100,000	95,000	会報発送等
三翠会連絡協議会負担金	30,000	30,000	
事務費	50,000	44,764	
予備費	287,085	14,954	慶弔費
計	1,357,085	842,014	
次年度繰越分		508,609	
差引残高		0	

### 三翠化学会平成3年度予算

1) 収入の部	前年度実績	予算(円)	備考
前年度繰越	497,086	508,609	
会費	844,000	675,000	
雑収入	0	5,000	
預金利息	9,538	5,000	
計	1,350,623	1,193,609	
2) 支出の部			
会報印刷	275,950	450,000	会報35,36号
郵送通信費	260,660	300,000	会報、会議連絡
会議費	129,686	150,000	役員・評議員会
人件費	95,000	95,000	会報発送等
三翠会連絡協議会負担金	30,000	30,000	
事務費	44,764	50,000	
予備費	14,954	118,609	
計	842,014	1,193,609	
差引残高	508,609	0	

# 新任教官紹介

## 三重大学に赴任して

土壌学・植物栄養学研究室

渡辺 巖



このたび四月より土壌・植物栄養学研究室の教授として赴任してきた渡辺巖です。

これは三重のことで、まず私が日本に帰ったこと、二つは三重大学に職を得たこと、三つは日本農学賞を受賞したことです。

これは三重のことで、まず私が日本に帰ったこと、二つは三重大学に職を得たこと、三つは日本農学賞を受賞したことです。

## 単直な新教授が最近感じて

いること

応用微生物学研究室  
大宮 邦雄



農芸化学の応用微生物学研究室に赴任(一九九一・一〇・一)して早くも一年近くになる。生物資源学部の新学舎屋上より眺めた三翠の美しさ(学園だより(一九九一・三))にも見慣れ、大学の教職員の方とも顔を

じみが多くなり日々新たな発見に胸おどる(こうより一九九一・三)程度が少なくなくなったわりに、当初より物事の中身を落ちついて見るゆとりが持てるようになってきた。こうなると厄介になる。まだまだ学内の不文律や慣習などには疎いにもかかわらず、新参者の常として「非常識」な言動をしだす。研究室にエアコンを付けたら、研究棟が汚いと事務長や館長に苦言をいったり、教授会で先輩の発言に水をさしたり……。諸先輩方が苦々しく思っておられることは自分でも肌で感じている。もっとも、当人はこれを直感で動く単純な男の性(サガ)だとくらくらにしか思っていない。ところが厄介さがあるが、これを「聞き流す」という三重大学のみならず、大方の寛大さに救われている。

ない制度になっていること。次で、優秀でも博士課程の学生指導に制度上参加できない若手教官が多い。にもかかわらず、これら若手教官の支援無しには研究室の円滑な運営は出来ないことである。これらの点を改善すべく、制度の運用面から何らかの手を打たないと、若手研究者の向上心が著しく傷つけられ、結果的には教授の指導力が疑われ、学部や大学院の沈滞化を引き起こすことになりはしないか?と心配している。

三重大学の伝統や不文律に対する無知にことよせて、今の所は直感のままに単行動しているが、この単純な私にも基本理念はある。それは、大学におけるあらゆる組織、制度、伝統、設備、それに教職員などは「独立性ある研究教育を通じて創造性」と人間性の豊かな人材を育成する「為」のみ存在が許されるものであるという考えである。この理念を尺度にして、私なりに若手研究者の意志表示が出来るに鋭意努力している。

業関係の研究機関に勤められた。助手と助教の間は、農林水産省農事試験場に、助教と教授の間は国際稲研究所(IRRI)に勤めた。IRRIには十六年間の生活があり、この三重県津での生活は実に十六年ぶりの日本での生活という事になります。この間に数回は帰国していましたが、久しぶりの日本の生活は実に新鮮で毎日楽しんでます。とは言っても、海外での長い生活で欧米式の思考法・生活習慣のえいさよを強く受けたせいか、日本のやり方にとまどうことがしばしばあります。「日米構造改善協定」とか「アメリカが日

取り残されたなというところで、岩手大学の同窓会は北水四十五ヶ国を訪れ、九十回飛行機を飛ばし、総飛行距離は約百万キロに達しました。共同研究者・研修生の国籍は二十五になります。IRRIの日常は気狂いのように多忙で、所内では厳しい業績評価と厳しい競争があり、このままでは寿命が縮んでしまおうと思つて帰国に踏み切りました。

それと比べるとこの生活は隔世の感があります。私が盛岡を離れた一九七五年は、ドル三億円、それが今は百三十円、日本もODA(政府開発援助)の額では世界の一・二をあらそうようになり、貿易・人事の面で大きく国際化しました。しかし帰国してすぐに感じたのは大学は完全に時代の変化に

化学研究室を選び、分子を思いのままに構築出来る有機化学合成の分野に足を踏み入れ、博士課程前期、後期と天然有機化合物の研究を行って来ました。その後、チーンパイのアーナミンVやベンゼン系でおなじみの武田薬品工業株式会社に入社し、飲み屋街で有名な大阪の十三の地で二年間医薬品の研究に携わってまいりました。平成三年四月本学生物資源学部(食品化学研究室)へ助手として赴任致しました。津市は西に鈴鹿山脈、東に伊勢湾と自然環境に恵まれ気候も良く過ごしやすい、快適な生活を送らせていただき、更に、三重大学の方々のやさしさを生物資源学部の発展を築こうとされる人々の熱意は大学勤務を始めて送る私にとっては心強い限りです。年齢以上に精神的に若く学生との区別が不明確ではありますが、逆にこの点を生かし有機化学をさらに極めて行きたいと考えております。無力ではありますが、どうぞよろしくお願致します。

昭和36年12月14日、三重県と隣接する愛知県稲沢市に生まれ、高等学校時代は濃尾平野の田園地帯の中を夏は緑風、冬は伊吹おろしを背に通つたものでした。その後、生まれ育った環境が自然に恵まれていたためか、あるいは家業の影響をうけたためか生物に興味を持ち(この頃は科学的な生物学でなく、現象的な生物学)、名古屋大学農学部に入り、ところが当初の意志とは異なり卒業研究に有機化学を専門とする食品有機

自己紹介  
食品化学研究室  
寺西 克倫

取り残されたなというところで、岩手大学の同窓会は北水四十五ヶ国を訪れ、九十回飛行機を飛ばし、総飛行距離は約百万キロに達しました。共同研究者・研修生の国籍は二十五になります。IRRIの日常は気狂いのように多忙で、所内では厳しい業績評価と厳しい競争があり、このままでは寿命が縮んでしまおうと思つて帰国に踏み切りました。

昭和36年12月14日、三重県と隣接する愛知県稲沢市に生まれ、高等学校時代は濃尾平野の田園地帯の中を夏は緑風、冬は伊吹おろしを背に通つたものでした。その後、生まれ育った環境が自然に恵まれていたためか、あるいは家業の影響をうけたためか生物に興味を持ち(この頃は科学的な生物学でなく、現象的な生物学)、名古屋大学農学部に入り、ところが当初の意志とは異なり卒業研究に有機化学を専門とする食品有機

昭和36年12月14日、三重県と隣接する愛知県稲沢市に生まれ、高等学校時代は濃尾平野の田園地帯の中を夏は緑風、冬は伊吹おろしを背に通つたものでした。その後、生まれ育った環境が自然に恵まれていたためか、あるいは家業の影響をうけたためか生物に興味を持ち(この頃は科学的な生物学でなく、現象的な生物学)、名古屋大学農学部に入り、ところが当初の意志とは異なり卒業研究に有機化学を専門とする食品有機

## 二翠化学会 役員名簿

平成3・4年度	会長	渡辺和己 (専1)
	副会長	原田俊夫 (専3)
	理事	小畑 仁 (大15)
		今西 勝 (専1)
		嶋林幸英 (専1)
		中川潔彦 (専2)
		鈴木幸郎 (専3)
		嶋田 協 (専3)
		福田 映 (大1)
		小林重一 (大2)
		岡田久司 (大3)
		洪谷 明 (大4)
		長谷川正一 (大8)
		今井 滋 (大9)
		杉崎 護 (大16)
		坪内 一夫 (大20)
		寺沢修平 (大23)
		田中完爾 (大25)
		中北隆也 (大27)
		益川 博 (大30)
		原 正之 (大32)
		佐々木敏雄 (専2)
		三翠支部長
	別府 宏 (専1)	東海支部長
	長瀬和雄 (専1)	関東支部長
	松村昌美 (専1)	関西支部長
	若林長生 (専1)	監事
	数本義雄 (大4)	幹事
	高橋孝雄 (大6)	
	平成3・4年度基金会計	
	田口 寛 (大17)	
	西川司朗 (大20)	
	平成3年度庶務	
	坂本一泰 (大15)	
	池山洋久 (大16)	
	佐脇寿郎 (大17)	
	内藤茂三 (大18)	
	白井五郎 (大19)	
	広瀬和久 (大20)	
	田中 忠 (大21)	
	古川公男 (大22)	
	平成3・4年度庶務	
	梅川逸人 (院14)	
	平成3・4年度庶務	
	古市幸生 (大13)	
	平成3・4年度庶務	
	倉田三郎 (専1)	
	大道敏行 (専2)	
	小林 隆 (専3)	
	西山正之 (大1)	
	評議員	
	深尾治郎 (大2)	
	闇雲明男 (大3)	
	花山信勝 (大4)	
	板谷昇次 (大5)	
	佐野 正 (大6)	
	今井照夫 (大7)	
	藤本公三 (大8)	
	平田満磨 (大9)	
	伊藤道子 (大10)	
	林 真栄 (大11)	
	今西康隆 (大12)	
	岡田勝宏 (大13)	
	西元勝也 (大14)	
	坂本一泰 (大15)	
	池山洋久 (大16)	
	佐脇寿郎 (大17)	
	内藤茂三 (大18)	
	白井五郎 (大19)	
	広瀬和久 (大20)	
	田中 忠 (大21)	
	古川公男 (大22)	
	寺沢陽子 (大23)	
	古山順啓 (大24)	
	伊藤 真 (大25)	
	深田 理 (大26)	
	百濟勝彦 (大27)	
	栗田 修 (大28)	
	中道裕久 (大29)	
	岩崎誠二 (大30)	
	稲垣卓次 (大31)	
	伊藤誠二 (大32)	
	粉川英治 (大33)	
	青山茂樹 (大34)	
	出岡裕哉 (大35)	
	若山秀人 (大36)	
	近藤圭一 (大37)	
	上田 聡 (大38)	
	松林幸誠 (大39)	
	駒田 洋 (院10)	

## 三翠化学会三重県支部 総会報告

去る6月2日、三翠化学会総会を引続いて三重県支部総会を開催しましたので報告致します。主たる条件は平成3・4年度の人事で、別掲の通り役員を上げます。(佐々木敏雄 記)

化学支部	役員名	氏名	卒業回数
支部長		佐々木 敏雄	2
副支部長		市川 淳	3
副支部長		市川 明	3
副支部長		市川 滋	4
幹事		近藤 清夫	3
幹事		奥野 誠二	3
幹事		小畑 和仁	15
幹事		渡辺 幸英	3
幹事		嶋林 彦彦	1
幹事		中川 潔彦	1
監事		今西 勝	2
評議員		奥田 孝夫	3
評議員		奥田 孝夫	4
評議員		高橋 孝雄	6
評議員		池山 洋久	16
評議員		杉崎 和久	16
評議員		広瀬 修平	20
評議員		寺沢 隆也	23
評議員		中北 卓次	27
評議員		稲垣 卓次	31

三翠化学会会則の主な改訂点

三翠化学会会則の主な改訂点

Table with columns for branch name, position, name, and graduation count.

# 三重大大学遺伝子 実験施設に赴任して

刈田 修一



生命現象の分子レベルでの解明をめざす遺伝子研究は、ますます進歩を続けており、これらの知識や技術を高度に活用したバイオテクノロジー研究は、医学や微生物工業、酵素工業等の工業分野、あるいは農業、水産業の生物生産といった応用分野で急速に発展しつつあります。

三重大大学においてもこの様な基礎、応用両分野における遺伝子組換え技術を利用した遺伝子関連の研究が急増の傾向にあり、遺伝子実験のための高度な施設設備を早急に整備する必要が出てきました。この様な状況のもと、平成二年度予算において学内共同利用施設として遺伝子実験施設が認められ、現在全国に17大学及び筑波と岡崎を加え19の遺伝子実験施設があり、そのひとつとして三重大大学遺伝子実験施設ができました。

現在まだ建物がなく、近い将来医学部と図書館の間に建設予定の助教1助手3のスタッフは、動物、植物、微生物のそれぞれの専門で生物資源学部及び医学部で研究を進めています。七月に赴任いたしました。

現在は、古巣の応用微生物研究室(旧発酵)にお世話になっており研究をしながら、新しい施設について規則をどうするかなどを(アイソトープ担当の方)でアイソトープの使用にどのような規則をつくるかとか管理区域内の実験室の配置等、考えているところです。三翠化学会会員の皆さんに経験上こうしたらいい等のノウハウがありましたらご連絡ください。まだまだ未熟者で勉強することはありますがよろしくお願いたします。

# リレーザ・定年



三重農専のときは農産製造科、三重大学農学部となった当初は農産製造科と学が入り、二年程して「農芸化学」となったが、今や、農専、農学部も農産製造という言葉もなくなり、生物資源学部「農芸化学コース」と改題された。「戦かかわ」かな時来る、あ、戦の時来るの三重高農応援歌、「製造の製の字は、分析すればノーチャンス、ステテナガレテミズトナル」と蜜声を取りあげたのも、定年を迎えた年代の語り草となっていました。

昨年の春、嶋田協教授から電話がかかった。

「今日、午後一時、農芸化学コース新入学生の歓迎会を開くので、急なことでわるいが三翠会館の前庭まで来てくれないか」という。

お前は、気楽な二度の勤めだから、すぐにも来れるだろうと言わねばかりであった。でも、そうだ、小生は気楽な第一の人生の人間なのだ、よし、すぐ行く

こう、上司に一言ことわって、津へと車をとばしたのであった。

新緑に暑い程の春の陽射しをいっばいに浴びた三翠会館の前庭に集った学生諸君は、女子学生も多く、二年生になって希望する農芸化学コースへの分属に合格したばかりであって、とても初々しくみえた。

さて、「定年の実感は」とよ

# 気楽な!? 第二の人生

専3(大1)

原田 俊夫

最初に挨拶に立たれた滝先生は、八十才になられたというのに益々こ健健で、研究への情熱をにこやかに語られた。

つづいて、「三翠化学会」渡辺会長の代理として一言ということまで私が前に立たされたが、急なことで戸惑いながらも、ふと浮かんだのが、定年の直前、松阪高校の卒業式で卒業生に送

置に参加し四年間主任として実務を経験してきました。在職中は各方面で三翠化学会会員の方々に御支援いただきありがとうございました。上司の理解もありこの六月末に円満退社し、七月に赴任いたしました。

現在は、古巣の応用微生物研究室(旧発酵)にお世話になっており研究をしながら、新しい施設について規則をどうするかなどを(アイソトープ担当の方)でアイソトープの使用にどのような規則をつくるかとか管理区域内の実験室の配置等、考えているところです。三翠化学会会員の皆さんに経験上こうしたらいい等のノウハウがありましたらご連絡ください。まだまだ未熟者で勉強することはありますがよろしくお願いたします。

# 教育係

西本 和美 (大33)

四月某日、今年も新入社員が研究部にやってきた。毎年のことではあるが、「どんな人が来るのだろう」と、期待と一抹の不安を覚える時である。私の所属する係には、男女一

人ずつ二人の新入社員が配属された。入社して丸四年たった私ははげしくの間、男の新入社員(日君と呼ぶ)の教育係を初めて担当することになった。

私の係は、医薬品の有効成分の定量分析が多い。「何をやらせようか」とおおいに悩んだが、最初に、当社で販売している「のどぬーる」のヨウ素の定量をやってみようことにした。実験手順ならびに化学反応を充分説明したのだがうまくできない。そこで、最初から最後まで日君の実験手順を見ることにした。すると器具の使い方の基本があまりできていない。大学院卒だということでも「器具の使い方」の基本は知っているだろう」と思い込んだのが間違っていた。聞く、「大学時代は

定量分析を、ほとんどしたことがない」とのことだった。自分で勝手に判断して、実験操作をきちんと見てあげなかったばかりに、よけいな時間を使ってしまった。やはり相手のことを考えて、いかに教える必要があるかと充分反省すると同時に、人を教えるのは難しいと感じた。現在は医薬品申請の方法を通して、医薬品申請の方法について説明を行っている。申請時に必要な書類・提出の方法・書類に必要な実験データなど、これまたかなりの難物で、覚えることが多く大変であるが、これを理解してもらわないと申請書を作成することができない。A4サイズにしておよそ三百ページの申請書作成の手引き書、すこしずつ理解してほしいものである。

栗田 寿一・東 由一  
両君を偲ぶ

去年の十月に栗田君。今年の六月に東君。とわずかの間に二人の親友を失った。断腸の思いである。栗田君は六十才。東君は六十三才であった。思えば昭和二十一年春新設の農産製造科和二十一年春新設の農産製造科一回生として24倍の難関を突破してはじめて顔を合わせた。栗田君は色白の秀才タイプで旧制高知高校に入学しながら父君の転勤によって三重に入社し、東君は旧制尾鷲中学を経て甲種飛行予科練出身銀河のパイロットと云うだけに体力抜群、ラゲビー、野球、駅伝と向うところ敵なく常にクラスマッチの英雄であった。

文才にすぐれた栗田君は「古東純」なるペンネームで短編小説を校友会文芸誌によく投稿し卒業までに図書館の文芸書を全部読破したと云う読書家でもあった。当時栗田君と私は栄養不足で体力がなく、牛乳を飲めるようになった。畜産製造を専攻した二人一組となって実験研究した卒業論文も栗田君と組んだおかげでパスし彼のおかげで卒業出来た。今も今も思っている。

卒業後十数年を経て津で仕事を始めた私は同級生の消息に明るい嶋林君の仲立ちで東君に連絡を求め彼と共に仕事を始めた。紀伊長島に生れ育った東君は黒潮の男と云う感じがびっしりした。人にはやさしく信義に厚く世話好きでだれにでも好かれた。三年前の夏四、五人で飲むかと云う話が東君の人の徳で希望者が続出し二十一人もが紀伊長島に集りお世話になった。この時も宿はもろん深夜の二次会の手配、翌日の船あそびの手配等さりげなく細心の気くばりで見事なものであった。栗田君も参加したこの会は両君

# 今、私は...

今、私は社会人になって二年目です。昨年一年間はただがむしゃらに突走してきました。たまたまこの欄に寄稿する機会をいただいたので、ちょっと小休止させていただきます。私はいくつかの経験から社会人になってから感じたことを書きつづつてみたいと思います。

さて、私は現在、(株)東芝瀬戸工場に勤務しています。この工場ではランドリー機器(二槽式洗濯機、全自動洗濯機、衣類乾燥機、食器洗い機)の生産を行っています。私はここで乾燥機技術担当として衣類乾燥機の開発を担当しています。ひょんなことから異業種ともいえる会社に就職した訳ですが、まず家電に対する見方が変わりました。というのは、家電製品には人々のライフスタイル、先端技術、ちょっととしたアイデア、c、がうまく溶け合っているというところがわかったからです。広くて浅い知識が必要な世界であることを感じました。家電といえ、昨年は(今年もですが)「ファジー」家電一色に染まった年でした。次は「ニュー」です。その次は一体何が出てくるのやら。せつかく衣

類乾燥機を開発するという仕事を納めているのですから、自分でも納得のいく衣類乾燥機の本質をついた製品がつくれたらと思っています。当面の目標は、世に出る製品に自分のアイデアが1つでも入ること、ということでしょうか。

その他にこの一年半弱で自分のためになったことは、沢山の人の出会えて話ができ、この人に出会えて話ができ、同期の人達、工場実習先の人達、販売実習先の人達、そして今の職場の人達。同じモノを見ていてもその人の今まで歩んできた道によってこんなに見方、感じ方が異なるものかというところに驚かされました。今まで私に知らなかった世界をいままで知らなかった世界を経験できたという点で、自分とあまり縁のなかつた世界に飛び込んでみた

# 「ふと立ち止まって…」

田中美穂 (大36)

今、私は社会人になって二年目です。昨年一年間はただがむしゃらに突走してきました。たまたまこの欄に寄稿する機会をいただいたので、ちょっと小休止させていただきます。私はいくつかの経験から社会人になってから感じたことを書きつづつてみたいと思います。

の正解だっと思っていました。これまで学んできた事を生かせる職業もよいですが、それにこだわらずにイチからやり直すつもりで他の世界に飛び込むのも一つの生き方だと思っ今日この頃です。イチからやり直すつもりでとはいっても過去に勉強したり経験したことは無にはならないので…

これからの私の課題は仕事のペースをつかむことです。今の私はついついオーバーワークになつてしまっているから。これからになっていくから。ちやうどペースを落としてじっくり考える時期に来ているのかも、私にはない。最後になりましたが、社会人になるということは、本当の意味で社会勉強になるのだということをしみじみとかみしめています。

栗田君も参加したこの会は両君



専1 今西 勝



# 35年の軌跡を 小冊子に

## 大学5回 クラス会

農芸化学科昭和32年卒業生二十八名、既に稲垣孟君、川部弥代次君、松本洋三君の三人を欠いている。又、小磯元男君、副島昌君など音信の途絶えている友人もいる。卒業後二十年目のクラス会は津市で開催、以後5年毎に開く積りが卒業三十年目を都合で開けなかった。二十五年度に元気で会合した友の中からは川部君が昭和六十一年九月に還浄し、昨年三月に四国高知市で元気に教鞭をとっているとは信じがたい。松本君が幽明境を異にした。友の計報を聞く我々も六十才に近い年代になっている。

来年は卒業三十五年目になるが、東京の加藤晃君から「そろそろリタイアする者も出るし、元気なうちにやろう……」との提案もあり、三重県長島町の厚生年金「ながしま荘」で、

五月十九日に開催した。それぞれが責任の重い年代でもあり懸念したが、関東組は加藤晃、岡出幸彦、山口清慈の諸兄が、関西組は芦田茂、岡田朝彦、山元敬之の三人が出席、中部地区は、江上光男、植松克介、草川勉、黒野隆、榊原久寿男、滝川重喜、板谷昇次、森田明正、山田幸雄、山田庄一の諸兄が参加し、幹事（水谷栄三）を含め総勢十七名が十年振りの旧交を温めた。

夕刻四時集合も皆定刻迄に集合し、ながしま荘自慢の温泉にゆっくり浸り、宴会まで各部屋で缶ビールを空けて小宴会、互いの健康や家族のこと、又仕事のことなど話題には事欠かず、楽しいひとときであった。

翌日は、桑名国際ゴルフで加藤、芦田、岡田、植松、榊原、山田幸、水谷、岡出の八名は、

クラス会初のコンペを開いた。前夜の飲みすぎがたり、スコアはバスケットカウントの続出、中でも圧巻は、スタート直後から茶店の化粧室をひたすら待ち詫びて、念願の〇〇〇〇を見つけた一目散、ハーフでリタイアしたK氏などは、スコアカードに何を記録したのだろうか？ それにしても楽しいコンペであった。

今回は、仕事の都合などで、刀根淳祐、佐野敦、立花繁雄、白田順史の諸兄が参加出来なかつたこともあり、これからは毎年集まることにしようか？との提案があり、一同、「元気なうちが花やかな……」とのことで、年一回クラス会を持つことになった。

農芸化学29回生(52・4入学)のクラス会が10年ぶりに開かれました。3分の1が出席、奈良先生もお元気に参加。

去る、5月25日、26日に農化29回のクラス会が三重県湯の山温泉の河鹿荘で行われました。卒業以来、研究室のOB会は、何度かあつてもクラス会ははじめて。荒木氏が家業にデビューのため地元四日市に帰って来たお陰で幹事をおかしてくれました。

# 酒に弱くなり 夜に弱くなり……

25日夜の宴会には急用で2名これなくなりましたが11名と奈良先生が参加されました。10数年前のコンパと全く同じ雰囲気です。話はずみまじり、高価な花瓶を倒すやつ、相変わらず人の話を聞かぬやつなど、変わったのはみんな酒に弱くなり、夜にも弱くなりました。同期の方、次回はぜひこのつよに。

追伸、幹事が決まっています。だれかいませんか？  
報告 29回 久野宏和

## 大学29回 クラス会



一部は荒木氏の食堂で昼食をご馳走になって帰りました。今回は紅一点で、こどもが大きいロレ子氏(旧姓片桐)が参加、次回は女性や遠方の方も参加しやすいよう名古屋周辺で昼間にやろうと話ができています。同期の方、次回はぜひこのつよに。

## 役員・評議員会 だより

本年度第2回会議が、8月2日6時より津市橋北公民館で開催された。当日は大変な猛暑で出席者も20名といつもより少なかったが、活発な討議があり、以下内容の要点をお知らせいたします。

\*評議員は全部で43名、当日の出席は2名のみ少し考えて、

1. 本年度理事の役割分担については本紙別項にて発表通り決定、総会当日の議長や他の役割は、担当理事にとられず会員のなかから広く選出する。

\*総会担当理事になんでもやらせないで。

2. 本年度総会の反省について、当日の出席は来賓恩師5名会員37名計42名と少なく残念だった。当初50名以上を予定したため、若干の赤字となり一般会計より補填した。今一つ会費を盛り上げる、若い人達の参加を呼び掛けるにはどうするか、いろいろ議論の結果

(1) 参加した人達に楽しい思い出を持ってもらえる行事の企画

(2) 卒業したての若い人達に総会の企画、運営、実行等全てを任せてやってみよう。

\*総会当日は例のない豪雨のなか出て下さった方には感謝あるのみ。

\*三翠化学会役員だけでも79名いるとゆうのに。

\*若い人達は年寄りのなかで居心地が悪いのだから。

\*金は出すが、口は出さないようにしよう。

3. 会費の納入状況について、納入率平均43%、卒業年度別の差が激しい。50%以上の良好なクラスを紙上で発表する。送金する手間が1年づつでは面倒なので5年分位をまとめて受け付ける。会費の値上げ及び終身会費等の制度も研究する。

\*納入率の極端に悪いクラス

## 榊原温泉で露天風呂

### 大学36回 クラス会



記念写真だ ハイノポーズ

2月中旬の土曜日、「久しぶり」の一言から第2回36期クラス会が始まりました。懐かしい農学部ロビーに集合し、一四五人集まったところで、なぜか卒業して3年もの今に本院生の林くんの案内で新学舎の見学に行きました。地上8階の屋上からは、町屋海岸は勿論のこと津の市街、中でもエルショップ、ピングセンター、県庁そしてライメンキングなどが一望できみんな学生時代を思い出して、話をはずませていました。

7階でトイレの前になると元ちゃん(曾我くん)は、とにかく見学記念にと男子トイレで初の

夜の部は、本来八百善で催すべきであった都合がつかずあさあけ会館で行われた。我がクラスの宴会といえはなんと一ツツも岸田くん(現高校教諭)でも心配だったが、それも束の間、会場に着くと「よう！ 待ってたんだよ！ 何してん？」とエリちゃん(曾我くん)の乾杯。で会が始まるともうとどまるところを知らないうち、いつか、いつか、と年がいきなりやります奴もいれは豊田ダイビング事件(注1)、吾一すいか投げ(注2)をこりもせず話し爆笑する者……中でも小畑先生が警察の方に謝っていただいたという事件は(注3)、申し分ないようでも、みんなおかしな腹をかかえていた様です。また次回のクラス会でも同じ話して盛り上がることでしよう。

次の日朝はやばやと仕事に出かける立派なサラリーマンを送り、榊原温泉へと向い、露天

を公表したいのだが。  
\*とにかく一般会計はぎりぎり、頼りの基金は目減りしている現状将来会報の発行も危なくなるのでは。

4. 会報第35号の発行について、原稿締めきり8月末、4ページ、発行予定9月末、内容は総会報告が主体だが、新規企画として、楽しい写真を多数採用する、研究室のOB会便り、役員会便り等。

\*何としても会員の皆様に到着が待たれるような、楽しくて懐かしい会報にして、末長く続けたい。

5. 基金の支出について、総会スナップ写真代とその送料約2万円の支出を承認。

\*印のところは、筆者の本音、悪しからず多謝(A.S.D.4)

風呂で一息ついた。各人楽しかった学生時代と、明日からの仕事のことを思い伊賀の空を眺めているようでした。

大学でみんなを送り出し、農薬の研究室に向う途中ふと思つた。卒業して、長い人生いろいろ事と出くわす。楽しい時、つらい時、何んでも心から語り合えるのは、いま送り出した仲間だということ。そして私は36期のクラスの一人であったことが本当にありがたううれしくなってきた。

そして今、わずか半年の間に会社人間になってしま、それがゆえにこう思うのか……会社でそう容易に心から語り合える友は出来ないと思う。大学で得た友は一生の宝であると改めて思い、明日からの出張の用意をはじめた……。

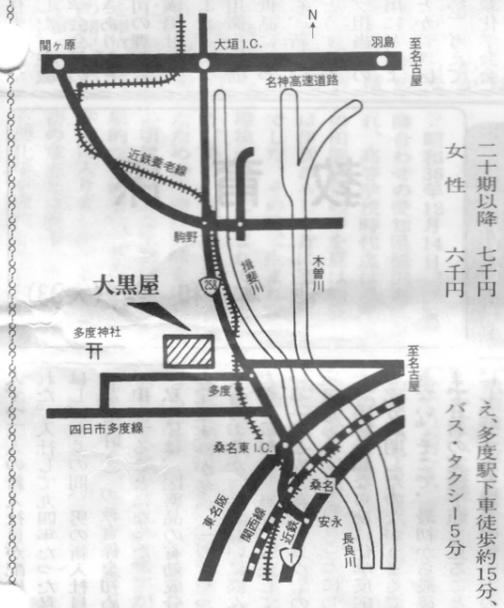
(注1) 豊田くんが下宿の2階から酔っぱらって落ちた事件

(注2) 若狭にクラスで海水浴に行った際岸田くんが酔って畑のすいかを全てドッチボールのように投げた。

(注3) これも岸田くんが警察の御世話になった際ウルトラマンのように小畑先生が登場した。

## 東海・三重両支部 合同飲み会開催へ 鯉料理で一パイ飲みませんか?

### 11月23日(祝・土) 多度「大黒屋」へ集合!!



久しぶりに飲み会をしませんか。東海・三重両支部の共催で企画いたしました。

鯉料理で有名な多度の「大黒屋」です。女性と若い年次の方にも集まってもらいたく、会費

一、日時  
十一月二十三日(土) 一時三〇分  
二、会費 八千円  
二十期以降 七千円  
女性 六千円

一、交通のご案内  
お車ご利用の場合  
名神大垣ICより30分  
東名阪桑名東ICより15分  
(国道258号線)

近鉄ご利用の場合  
桑名にて近鉄養老線乗り替え、多度下車徒歩約15分、バス・タクシー5分

## 役員・評議員会 だより

本年度第2回会議が、8月2日6時より津市橋北公民館で開催された。当日は大変な猛暑で出席者も20名といつもより少なかったが、活発な討議があり、以下内容の要点をお知らせいたします。

\*評議員は全部で43名、当日の出席は2名のみ少し考えて、

1. 本年度理事の役割分担については本紙別項にて発表通り決定、総会当日の議長や他の役割は、担当理事にとられず会員のなかから広く選出する。

\*総会担当理事になんでもやらせないで。

2. 本年度総会の反省について、当日の出席は来賓恩師5名会員37名計42名と少なく残念だった。当初50名以上を予定したため、若干の赤字となり一般会計より補填した。今一つ会費を盛り上げる、若い人達の参加を呼び掛けるにはどうするか、いろいろ議論の結果

(1) 参加した人達に楽しい思い出を持ってもらえる行事の企画

(2) 卒業したての若い人達に総会の企画、運営、実行等全てを任せてやってみよう。

\*総会当日は例のない豪雨のなか出て下さった方には感謝あるのみ。

\*三翠化学会役員だけでも79名いるとゆうのに。

\*若い人達は年寄りのなかで居心地が悪いのだから。

\*金は出すが、口は出さないようにしよう。

3. 会費の納入状況について、納入率平均43%、卒業年度別の差が激しい。50%以上の良好なクラスを紙上で発表する。送金する手間が1年づつでは面倒なので5年分位をまとめて受け付ける。会費の値上げ及び終身会費等の制度も研究する。

\*納入率の極端に悪いクラス